



くさばな しんぶん

2020年12月号

2020（令和2）年
12月1日発行
通算第295号

《幼稚園児と英語》

小学校で英語が授業として行われるようになる以前から、幼児に英語を学ばせようとする風潮はありましたが、最近ますますその傾向は強くなっているように思います。

しかも小学校5年生からの英語は今年度から「教科」になりました（新学習指導要領）。小学校で教科になってしまうと評価の対象となるので、親御さんしてみれば、それに備えて幼稚園から英語に馴染ませておきたい、と願うのは人情というもの。でもよくよく考えてみる必要はありそうです。

鳥飼玖美子さんという英語の先生がいます。この先生は一貫して小学校への英語教育の導入に反対している先生です。この方は同時通訳者としても有名だった人ですが、立教大学でながく教鞭をとられた、英語教育で有名な方です。この方の書かれた本から引用します。

・最近の日本で目立つのは「子どもを自分の自己実現の手段とする」親の存在だと言われます。「子どものため」と称して自分にできなかったことを子どもに実現させようとする。これは英語に関しては顕著です。

でも、親としては不安です。そんなタテマエを言われても、とか、まわりはみんな通っているし、とか、こうした先生は実力があるから特別なんだ、という反論もありそうです。しかし、英語にせよ他の教科にせよ、小中学校を通して力を出すためにはもっと大切なことがある、と鳥飼さんは言います。

・英語が少しはかりできるかどうかなど、小さな問題です。幼稚園や学校で習う英語は、そのままでは大人の英語になりません。（中略）小学校で習った英語だけでは社会人になって使える英語にならないので、中学・高校で読み書きを土台にしっかり学習する必要があります。最近のアメリカでは、外国語教育の目的は異文化コミュニケーション能力育成であり、そのためには「読み書きを基盤にした指導」だ、という潮流が出てきています。

おやおや英語イコール会話ではないのですか。しかも「会話」ではなく「読み書き」が大事だと…。鳥飼さんは語彙力（ごいりょく）を強調します。

・内容を伴った、意味のある英語を相手にわかるように話すには、読み書きを通して必要な語彙を学び、論理的な組み立てを習得する必要があります。お子さま英語では間に合いません。

・幼児期・児童期は、「言葉あそび」や「絵本の読み聞かせ」などを通して、母語（日本語 山城註）の基本である絶対音感や音韻規則を全身で吸収している肝心な時期なのです。この時期に培った母語の力が土台となって、やがて意識的に外国語を学ぶ際に力を発揮するのです。

（鳥飼玖美子『子どもの英語にどう向き合うか』NHK出版新書 2018）

結局は、母語である日本語の読解力や語彙力がないと外国語もモノにならないということのようです。そのためには、読み聞かせやお話を幼児期にたくさんして上げること、日々の遊びや生活を充実したものにしていけるよう、大人が配慮しなければならないということになるようです。

理事長 山城 清邦

《遠足に行きました》

11月6日（金）、全園児で秋留台公園へ遠足に行きました。今年度初めての遠足となりましたが、保護者の皆さまには早朝からお弁当のご用意等をしていただき、ありがとうございました。

今年度は、普段の保育でもお散歩に出る機会が少なかったこともあり、秋留台公園までの道のりが少し遠く感じたお子さまも多かったようです。それでもやま組のお子さまがかわ組のお子さまの手を引きリードして歩いてくれたり、草花駐在所の松崎さんが横断歩道や歩行中の安全を見守ってくださったりしたので、全園児一人も欠けることなく最後まで歩くことができました。

公園内では、各学年ごとにどんぐりを拾ったり、芝生の広場で思い切り体を動かして遊んだりしました。幼稚園とは違った環境の中で、幼稚園では経験できないことがたくさんできた遠足となりました。各クラスのクラスだよりも遠足の様子がかかれていきますので、そちらも併せてご覧ください。

《収穫の秋》

11月は芋掘り、大根の収穫、年長児はお米の収穫とたくさんのお作物を収穫しました。かわ組さんは初めての経験となったお子さまが多く、大人の援助があつての収穫でしたが、もり組、やま組のお子さまたちは、昨年、一昨年の経験がしっかり身につけていて、頑張っで自分で掘り進めることができていました。土に触れることに抵抗があるお子さまが年々増えていると感じながらも、お芋が出てきた時や自分で収穫できた時の喜びの表情は、今も昔も変わりません。こうしたお子さまたちの姿を見ていると、やはり土に触れる経験や収穫の喜びを味わうことは、お子さまたちには必要な経験なのだと改めて実感することができました。

今年度は新型コロナウイルス感染症のため例年行っている収穫祭での豚汁づくりはできませんが、ぜひご家庭で収穫したお芋や大根を使ってお子さまと一緒に豚汁づくりをするなどして、ご家族皆さまで収穫の喜びを味わっていただけたらと思います。

園長 影山 幸江

「Akiruno Winter Festival 2020」が開催されています

今年は「がんばろう！あきる野」というテーマで、訪れた人たちに少しでも元氣になってもらえるように、秋川駅周辺がイルミネーションで飾られています。

例年のような市内の園児が描いた絵の展示や中学生の作品展示はありませんが、素敵なイルミネーションに癒されると思います。お時間のある方はぜひお出かけください。

点灯期間：令和2年11月28日（土）から令和3年2月28日（日）まで

点灯場所：秋川駅北口ロータリー、秋川駅南口ロータリー及び駅前大通り

点灯時間：午後4時30分から午前0時45分まで

*点灯時間、期間は変更することもあります。



*写真は昨年以前の物です。

私のおすすめの絵本

（この欄は教職員が交代で担当します）

『いのちをいただく～みいちゃんがお肉になる日』

原案 坂本 義喜 作 内田 美智子 講談社



私は娘が2年生くらいまで、毎晩絵本を読んであげることが日課になっていました。今日は面倒くさいな…と思う日も当然ありましたが、娘はそれを楽しみにしていたので、その期待に添えていました。今となってはそれがひとつのいい思い出となっています。その思い出のひとつとして…、この絵本を読んだとき、親子で泣きました。私たちが食べているものすべて、命をいただいているということ。いただきますと言う意味。

小さいながらも、きっと理解できる場所はあると思います。ぜひ一緒に読んで、食について考えるきっかけにしてみてくださいね。

主任教諭 杉本 和美